



# コスモス

九月

No.5

【知】 進んで学びよく考える子 【徳】 明るく思いやりのある子 【体】 たくましくねばり強い子

## 仕事の仕方

校長 清水 励

2学期が始まりました。この夏休みは2年ぶりに行動規制等の無い長期休業となり、家族での帰省や旅行などを楽しまれた御家庭も多いことかと思えます。

しかし、新型コロナウイルス感染症の第7波はいまだ収束せず、全国の死亡者数の過去最多を記録するなど、感染への細心の注意を要する中で学校の開始となります。学校では、2学期開始にあたり、1学期にはやや緩和の方向にあった活動制限等について改めて教職員で話し合い、「活動制限等を強化した対応」に変更して、学校生活の再開を見守りたいと考えております。学校行事等の予定・実施方法の変更を行うこともあるかと思えますが、保護者の皆様には御理解と御協力のほどよろしくお願いいたします。

8/20(土)に予定しておりました「親子除草」を中止にしたため、校庭の除草を職員で行っております。校庭や校舎周辺の雑草については、多くの学校でその対応に苦慮しているところで、手の付けられない状態まで放っておかないことが一番大切なことと思えます。校地内に雑草が繁茂して荒れ果てた状態の場所があることは、「割れ窓理論」にあるように、子供たちへの教育上も極めて望ましくないことです。10月には校庭の芝生化(トラック内のみ)も完成し、子供たちは芝生の校庭で元気に駆けまわりながら活動できますが、校庭が「雑草園」とならないよう、これまで以上の校庭管理体制が必要となります。来年度より、地域の方々の御協力を得ながら「芝生管理」を行う予定でおります。御協力いただける方々には、吹上小学校のために、御支援をいただきますようお願いいたします。

私は、草取りを行う時に、いつも思い出す「ある方」がいます。

その方は、私の初任校の用務員さんのKさんです。Kさんは男性で、当時の年齢は多分60歳前後、とても控えめな方でした。自分のような若造の話をいつも笑顔で聞いてくれた温厚な方でした。初任校の校庭や学年園は、いつも「雑草が一本も生えていない」きれいな状態でした。体育主任だった私も、前体育主任から引き継いだ校庭整備には力を入れており、空き時間や放課後に、鉄骨杵を車で引いてグラウンドを均したり、隅に生えてきた雑草を手で抜いたりしていました。

夏休みに入って、校庭の隅の方に生えてきた雑草を抜きに行くと、既にKさんが一人で草取りをする背中が見えました。Kさんは足を患っているため、足を前に投げ出しながら地面に座って草取りをします。『そのKさんの草取りのやり方たるや!』自分はこれまでやってきた自分の草取りが恥ずかしくなる思いで見いってしまいました。Kさんはほんの1cm位しか出ていない小さな雑草も丁寧に指でつまみながら抜き、そして、抜き終わった後には、落ちていた小さな葉っぱなど1枚も残さずにきれいに集めて袋に入れていました。Kさんが草をとった後の場所には、緑色のものは一つも見当たらず、グラウンドの土しか見えない状態になっているのです。校庭がいつもきれいな状態なのは、Kさんがこんな風に、地べたに座りながら、見えないところで丁寧な仕事をしてきているからなんだということを知りました。そして、草取りのやり方以上に、「仕事」をする上でのとても大切なことを教えていただきました。

**見える場所や目立つ仕事を一層懸命にやることは誰でもできるけれど、人から見えない地味な仕事や陰の部分での仕事を、どれだけ手を抜かずに誠実に行えるか。**これは、きっとその「人となり」の表れであり、何のために仕事を行っているかの表れなのでしょう。

除草をするたびに思い出すKさんの優しい笑顔と仕事の仕方。改めて自分の仕事を振り返るとともに、自分の知らないところでも頑張っている方々がいらっしやることを忘れずにいたいと思えます。

保護者・地域の皆様には、2学期も大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。